



みなさんの活躍
紹介します

窓

インターハイなぎなた競技大会の
企画・運営を担当

高校生のひたむきな姿を 見てもらえた

北海道札幌国際情報高等学校 教諭

やまだ まさひと
山田 正人 さん



インターハイ千歳市実行委員会の一員として、札幌国際情報高校から派遣。今年4月から市役所に常駐し、大会の企画・運営を担当。盛況に導いた。10月からは札幌国際情報高校に戻り、教壇に立つ予定。担当教科は数学。

—— 実行委員会でのお仕事内容について教えてください。
インターハイなぎなた競技大会の運営全般です。道内外の大会役員や補助員との調整、大会PR、申し込み受付、当日運営などなど…。36年ぶりの北海道開催とコロナ明け4年ぶりの通常開催ということもあって、最初は手探りでの準備が続いていました。それでもインターハイを目標に頑張ってきた高校生にとつて、思い出に残る大会にしたいの思いで頑張りました。
—— 大会を振り返っていかがですか。
大会運営には、千歳高校、千歳北陽高校、千歳高等支援学校、市内の小中学校からのご協力をいただきました。大会後には先生方、生徒の皆さんから「協力できて嬉しかった。楽しかった」という言葉をいただきました。広報とせ7月号を持参して来場された市民の方を含め、4日間で2500人以上の方々には大会を観覧していただきました。来場者の方々には、高校生たちがひたむきに努力し頑張っている姿を見てもらえたかなと思います。

—— 大会期間中、印象に残った出来事がありますか。
まず例年がない猛暑の北海道開催だったこと。それから沖縄県の首里高校が、台風で大会に出場できない可能性がありました。団体試合と演技で優勝を果たし、選手の笑顔で閉幕したことが印象的でした。また、こざき亜衣先生（漫画《あさひなぐ》作者）から、今大会のために激励のメッセージと描きおろしいイラストのご協力をいただきました。とてもありがたかったです。
—— 市民の皆さんへメッセージをお願いします。
今回の経験は、私が今後、教員生活を続けていくうえで大きな財産となりました。大会運営にご協力いただいた実行委員会、千歳市体育協会のスポーツ推進委員、武道館の方々、市役所の各部署、そして市民の皆さんにお礼を申し上げます。

先生、教えて!



鼠径（そけい）ヘルニア、
腹壁ヘルニアってなに



市立千歳市民病院
外科医長 谷 道夫

今回は、鼠径（そけい）ヘルニアと腹壁ヘルニアについてご紹介します。
鼠径ヘルニアと腹壁ヘルニアは、弱くなった部分の筋肉から、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が皮膚の下に出てきて、膨らみとしてわかる病気です。俗に、「脱腸」とも呼ばれます。

足の付け根あたりの部分を鼠径部といい、ここに生じるものを鼠径ヘルニアといいます。もともと鼠径部は筋肉が弱くなりやすく、特に男性に多い傾向があります。
一方、腹壁ヘルニアは腹壁の弱い部分から内臓が突出する状態です。これは、腹部手術や妊娠、肥満などが原因として考えられます。

膨らみが急に硬くなり、膨れた部分をpushさても引っ込まなくなることがあります。また、お腹が痛くなったり、吐いたりすることもあります。これは、筋肉の隙間にはまり込んだ腸管が戻らなくなった状態で、ヘルニアの嵌頓（かんとん）といいます。
このような場合、急いで対応しなければ数時間で腸が壊死し（腸が腐る）、命にかかわることもあるので、速やかに医療機関へご相談ください。

これらのヘルニアは自然に治ることはないため、治療には手術が必要です。
近年の医療技術の進歩により、手術は安全性が高く体の負担も小さいため、数日間の入院で治療可能です。

今回は手術治療に関して詳しくお話しします。